

岡本銘木店

木造事務所棟を新開設

非住宅木造建築の提案力強化へ

岡本銘木店(吹田市)は、兵庫県丹波篠山市に建設している木構造の丹波篠山工場内に、新たな木造事務所棟を開設した。CAD設計の拠点として活用する他、工場見

学と連動した内覧にも対応し、非住宅木造建築分野における提案力のさらなる強化を目指す。

事務所棟は、非住宅木造建築で事務所・オフィス空間の可能性を追求して設計。約1800㎡の深い軒の出が特徴で、夏の日射を遮りつつ、冬季には暖かい日差しを室内に取り込むなど、季節ごとの快適な室内環境を実現している。



丹波篠山工場内に新たに開設した木造事務所棟。深い軒の出が特徴で、夏の日射を遮りつつ、冬季には暖かい日差しを室内に取り込むなど、季節ごとの快適な室内環境を実現している。

び会議室空間には、奥行き8198mm(芯々)の流通材を活用することで

構造的な安定性を確保しながら、工期の短縮とコストの削減を果たした。規模は木造2階建て延べ411平方メートル。所在地は兵庫県丹波篠山市北378ノ1。工場・倉庫・事務所棟の内覧を随時受け付けている。問い合わせ先は国際企画部 電話06(6245)1333。

パナソニック環境エンジニアが創業記念式典 日々の努力と成果たたえる



パナソニック環境エンジニアリング(吹田市)は5日、創業記念式典を新大阪江坂東急REIホテルで開催した。式典には執行役員や表彰受賞社員、在阪拠点の責任者らが参加。社員同士で交流を深めた他、永年勤続表彰や業績表彰を行い、日々の努力と成果をたたえた。

同社は2026年に創業50周年を迎える。半世紀の節目を迎えるに当たって担当者は「次の50年に向けた新たな一歩を踏み出す年として、社内外でさまざまな取り組みを予定している。節目の年にふさわしい形で、より一層の価値提供と社会貢献を目指す」とコメントしている。

安全+大会フラッシュ

●パナソニック環境エンジニアリング西日本支店 (6月16日)

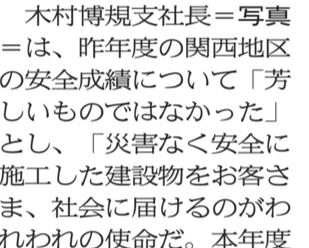


小野勝代表取締役社長=写真=は、協力会社の現場支援に謝意を示すとともに、「今後も労災ゼロを目指す」と決意表明。安全確認と即時停止の徹底を求め、現場での安全意識向上と連携強化の重要性を訴えた。

続いて藤原詔司執行役員西日本支店長は、「安全は全ての業務の基礎だ」と強調し、西日本支店の2025年度の安全重点取り組みを紹介。さらに、「経験不足や疲労などヒューマンエラーの要因を理解した上で対策を講じてほしい」と呼びかけた。

大会では、安全に貢献した協力会社を表彰した他、全社、西日本支店、近畿営業所など各所の安全活動方針をそれぞれ説明。また三宝電機執行役員の朝日奈芳隆氏が安全宣言を行い、無事故無災害に向けて決意を新たにした。

●西松建設西日本支社 (6月13日)



木村博規支社長=写真=は、昨年度の関西地区の安全成績について「芳しいものではなかった」とし、「災害なく安全に施工した建設物をお客さま、社会に届けるのがわれわれの使命だ。本年度こそ改めてゼロ災の達成を目指し、皆さんと共にまい進していく」と決意を述べた。

安全と品質を最優先に捉え「例えば、高所作業で安全帯をしているから安全だけではなく、そもそも危険な作業をなくし、高所作業とならない工事を計画することが大事」と強調し、個人が保護具に頼るのは最終手段であるとの認識を共有した。

来賓で出席した大阪中央労働基準監督署の高野清司安全衛生課長は、墜落・転落災害の防止、熱中症予防対策を徹底するよう呼びかけ、「労働災害防止の重要性を改めて確認し、安心して働ける職場環境づくりに努めてほしい」と求めた。

中央安全衛生委員長賞や支社長賞の表彰式の後、安全の誓いを唱和し、無事故・無災害を誓った。

●不動テトラグループ (6月13日)



あいさつに立った不動テトラの野口繁良大阪支店長=写真=は、「建設資材などの物価高騰や人手不足など厳しい事業環境が続いているが、今後も全社一丸となり社業の発展に取り組んでいく」とあいさつ。

また、昨年度の労働災害の発生状況を報告し、「作業員の危険意識の欠如やヒューマンエラーが労働災害の要因となっている。軽率な行動や近道行動をしないよう、繰り返しの指導をお願いしたい」と呼びかけた。

大会には180人が出席。記念講演として元プロ野球選手の矢野燿大氏が講演した他、安全研修などが行われた。

安治川船着場整備など 工事発表会を開催 五大コーポレーション



施工手順などを説明

橋(下り)補修工事など7件の工事について、概要や施工するに当たっての工夫などを発表し、質疑応答が行われた。丸橋宣夫社長は、「今回は発表が七つあるため、持ち時間が20分と短くなる。各現場であった課題や工夫、苦労したことなどを発表し、次の施工につなげてほしい」と思いを述べた。

安治川船着場整備工事の担当者は、鋼管杭打設の施工方法について、施工位置の変更に伴い当初予定していなかった支障

物撤去を行った過程などを説明。発表を聞いた入社2年の社員は、「携わったことがない工種の施工イメージがつかやく勉強になる上、経験の少ない若手にとって知識を付ける良い機会になった」と話した。



「FWアンカー」を販売 エスイー あと施工アンカー

従来のあと施工アンカーは、ねじ加工を直接施すため、有効断面積を低減する必要があった。そのためサイズの大きい鉄筋を用いなければならない

エスイーが開発したあと施工アンカー「FWアンカー」は、有効断面積が大きいにもかかわらず、従来の鉄筋本数を削減できる。また、細い径の鉄筋を適用できるため、既設構造物への負担を軽減する。削孔作業のコスト削減と省力化、環境負荷の低減を実現するという。販売に合わせた設計者への技術サポート体制を整えている。

問い合わせ先はエスイー 電話03(5321)6521。

西高速メンテ 25年度交通規制安全大会 「日本一のプロ集団へ」

NEXCO西日本メンテナンス関西は6月3日、2025年度交通規制安全大会を開いた。藤澤茂樹社長は開会のあいさつに立ち、「日本一の高速道路メンテナンスのプロ集団を目指し、高速



道路の計画的な維持管理に全力で取り組む」と意気込んだ。

来賓としてあいさつしたNEXCO西日本関西支社の川瀬憲司保全サービス事業部長は「規制作業手順の改善を図るとともに、AIなどの新技術を駆使した安全対策の取り組みを進める」と話した。

安全大会では、近畿管区警察局長や調整部の鳥羽剛高速道路管理官が講

演した他、西日本高速道路メンテナンス関西の谷内洋之技術管理部長が事故防止対策・安全対策の現状について説明した。

広報誌O-WAVE漫画シリーズ 第9弾を発行 大阪建設業協会

大阪建設業協会(銭高久善会長)は、広報誌O-WAVEの漫画冊子「明日を拓く 建設業の未来地図」を見・感・行でGO!」を発行した。

久善会長は、広報誌O-WAVEの漫画冊子「明日を拓く 建設業の未来地図」を見・感・行でGO!」を發行した。

若年者の入職促進活動の一環で2015年度から漫画シリーズを発行しており、今回で第9弾となる。西日本の工業系高校や大学の建設関連学科など各方面に、1万部の配布を予定している。

今回は、災害時における道路啓開の活動など、一般にはあまり知られていない取り組みや、迅速な対応を可能としたセネコンの総合マネジメント力を紹介し、建設業が果たす役割をカッコよく、分かりやすく紹介。中高生や大学生に建設業界に興味・関心を持ってもらい、将来の進路選択の一つに「建設業への入職」が加わることを目指す。



工業系高校などに1万部配布